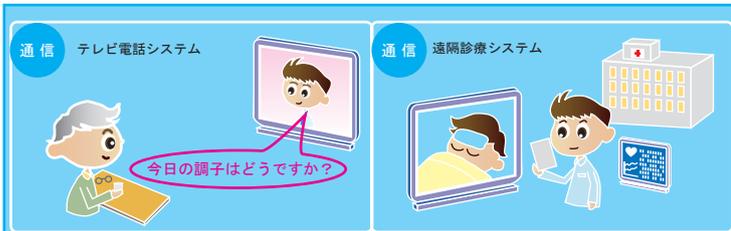


なぜ建物内に光ファイバー配線が必要なのか？

居住者のゆたかで安全な生活のための、映像や音声を利用したシステムやサービスに対応できる統合配線を光ファイバーで構築する事が今後の建物のあるべき姿なのです。



通信

現況のブロードバンド通信は ADSL と光 VDSL（建物内配線は電話線や UTP ケーブルを利用）と言った方式になります。今の環境下では次世代ネットワーク（NGN）サービスに対応できません。従って、テレビ電話やより高品質でより高速な通信に対応できます。高画質なテレビ電話は遠隔医療・介護の面からも今後、重要なアイテムとなります。

放送

2011年7月地上波デジタル放送への完全移行に伴い、情報の伝送量が大幅に増えます。屋内同軸ケーブル配線の劣化による、視聴不能、画質低下などの症状が予測されており、その結果、同軸ケーブルの引き直し等、設備改修工事が必要になります。光ファイバーを屋内に構築することで最高画質のハイビジョン映像を愉しんだり、NHK が提供している過去番組の再送信サービスなどの今後の様々な映像サービス拡張に対応可能となります。

光ファイバーがもたらす快適生活

防犯・防災

インターホンやオートロックといった基礎的な防犯対策も、配線を必要とします。屋内の光ファイバー配線があれば、各機器を光ファイバーに接続する事でテレビをモニターやコントロールパネルとして、活用できます。つまり、専用機器が必要なくなるのです。警備会社の防犯システムを導入したいと言う場合も同様のことが言えます。防災についても、既に試験運用されている地域防災支援システムとの連動で、エレベータを地震発生前に停止することも可能になります。

省エネ・家電

光ファイバーを住戸内に敷設することで、スマートグリッド等、エネルギーの効率的な利用のために必要なネットワーク配線として活用できます。このネットワーク利用で、電気、ガス、水道の遠隔検針やインターホン端末を使った管理組合や自治会の回覧板等の電子化ができます。また、将来的にはこのネットワーク配線を活用する事で、宅内設備のコントロールをテレビ画面で操作を一本化するという事も可能です。



※イラスト記載のシステムは光ファイバー建物構築により導入可能となる将来システムであり、光ファイバー建物内構築工事のみで利用可能となるシステムではありません。御利用には各システムの購入・契約・工事等が別途必要となります。

既存マンション管理組合等への導入交渉の切り口は、統合配線としての光ファイバーですので、居住者のニーズにあわせて、通信・放送・防犯・防災・省エネ等各設備導入とのパッケージで、ご提案する事で理解を得られやすくなります。